

(別添2)

No.	
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 高島市産地 (作成主体:高島市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

米を中心とする水田農業を基幹とする本市では、需要の変化に柔軟に対応する米作りと合わせ、自給率の向上が求められる麦・大豆について生産性向上及び本作化を進めるとともに、非主食用米や園芸品目等との組み合わせによる農業所得の向上を図り、時代の変化に応じた力強い水田農業を確立することが求められている。

高島市の麦・大豆生産は、平成6年産に作付面積が大きく減少していたが、平成30年産に行政による生産数量目標の配分がなくなったことや米価下落の影響を受け、麦・大豆を本作として位置づけ生産拡大する機運が高まっている。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、実需者と密接に連携し需要が見込まれる品種への導入・転換を図るとともに、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする団地化等を推進し、生産性の高い麦・大豆産地づくりを実現する。

現在、高島市においては、高島市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン、転換作物拡大計画により水田収益力強化の推進に取り組んでおり、本計画において麦・大豆の生産拡大および生産性向上にかかる取組をより具体化するとともに、関係者の連携を強化し、農業・農村の更なる活性化を図る。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦類

高島市では、六条大麦「ファイバースノウ」が主食用途として300t生産されているが、地域の生産量は実需の要望を超えている。このことから、実需者の需要情報を的確に把握するとともに、要望を超える数量については、数年以内に供給量が不足している小麦「びわほなみ」等への転換が必要である。

大豆

高島市では、煮豆用に「オオツル」が、また、味噌や豆腐用に「ことゆたか」が栽培されているが両品種とも県域では生産量が不足しており、実需の要望に応えられていない。

(2) 生産における現状と課題

麦類

水田における麦類の作付面積は約100haで、作付割合は、県平均の17.1%に対し、高島市では2.2%と著しく低い。主食用水稲以外では、加工用米や飼料用米、WCS用稲が栽培されているが、作業が集中し、作業の遅れや用水不足が深刻となりつつある。また、単収も300kg/10a程度と低い。このことから、畑作物で収益性が高い麦類の作付けを増やし、明渠や心土破碎等による湿害対策や団地化の推進により、単収の確保を図る。また、小麦「びわほなみ」については、積雪地域における栽培の留意点を確認し、速やかに転換を図る。

大豆

作付面積は、近年140ha程度で推移しており、作付け割合は県平均に比べて著しく低い。また、単収も令和2年産は69kg/10aと県平均の124kg/10aと比べて低く、近年は同様の傾向となっている。このことから、大豆においても湿害対策を徹底し団地化を推進する。

団地化

麦類・大豆ともに、作付面積が少なくほ場が点在する傾向にある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		R元年産	R2年産	R3年産(現状)	R元年産	R2年産	R3年産(現状)	R元年産	R2年産	R3年産(現状)
小麦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大麦	ファイバースノウ	99	97	114	378	342	259	374	332	295
作物計		99	97	114	378	342	259	374	332	295

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		H30年度	R元年産	R2年産(現状)	H30年度	R元年産	R2年産(現状)	H30年度	R元年産	R2年産(現状)
大豆	—	146	123	142	54	75	69	79	92	98
作物計		146	123	142	54	75	69	79	92	98

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	—	—	—	—	—	—	—	
大麦	ファイバースノウ	88.4	89.3%	88.0	90.7%	94.0	82.5%	
作物計		88.4	89.3%	88.0	90.7%	94.0	82.5%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	—	41.9	28.7%	51.0	41.5%	67.5	47.5%	
作物計		41.9	28.7%	51.0	41.5%	67.5	47.5%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

滋賀県の産地交付金の県設定メニューにおいて「団地」は、概ね1ha以上の同一作物が作付されているか、もしくは概ね2ha以上連担し団地が形成されているうち同一作物について概ね1ha以上作付けされていることとされ、高島市においても1haを団地の基準とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現

麦については、主に栽培されている六条大麦「ファイバースノウ」が需要量を超える状況にあるため、実需者の需要情報を的確に把握するとともに、要望を超える数量については、収量性および製麺適性の高い「びわほなみ」への転換を進め、ミスマッチを解消する。

大豆については、需要に対して供給が足りない状況にあることから、安定生産を図るため排水対策等の基本技術の励行による収量向上と併せて、作付拡大を推進する。

②団地化の推進

麦類・大豆ともに、作付面積が少なくほ場が点在する傾向にあるため、まず、作付面積を拡大することにより団地化率の向上を図る。

併せて、産地交付金や水田麦・大豆産地生産性向上事業等を活用し、生産者および集落への啓発により団地化への意識づけや、他地域の事例紹介等を行い、集落ぐるみによる団地化およびブロックローテーションの取組を支援する。

③土づくり

地力の回復に向けては、地力分析結果に基づき堆肥の施用を推進するとともに、土壌診断により適正な施肥を推進する。

④排水改良

排水の改善に向けては、明渠や弾丸暗渠、心土破碎等の施工を進めるとともに、その効果的な施工方法を指導する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	R3年産(現状)			R10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	びわほなみ	—	—	—	160	400	640	
大麦	ファイバースノウ	114	259	295	90	323	291	単収は3か年平均
作物計		114	259	295	250	372	931	

作物名	品種名	R2年産(現状)			R9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	—	142	69	98	180	124	223	
作物計		142	69	98	180	124	223	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

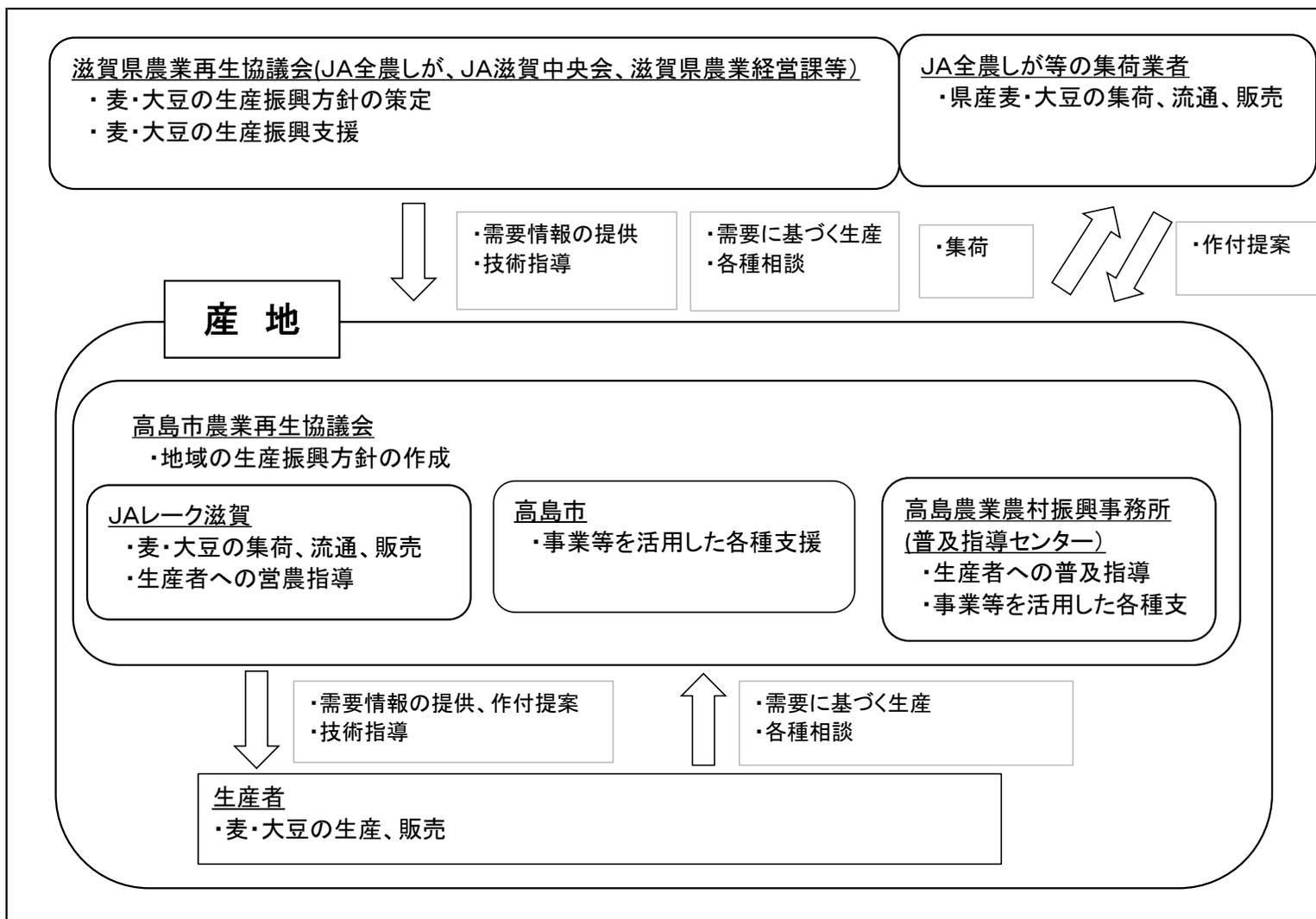
② 団地化

作物名	品種名	R3年産(現状)		R10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	びわほなみ	—	—	227	90.7%	R3:114ha × 82.5% R10:250ha × 90.7%
大麦	ファイバースノウ	94	82.5%			
作物計		94	82.5%	227	90.7%	

作物名	品種名	R2年産(現状)		R9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	—	68	47.5%	108	60.0%	R2:142ha × 47.5% R9:180ha × 60%
作物計		68	47.5%	108	60.0%	

- ※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
- ※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。
- ※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)
- ※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。
- ※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	高島市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン	毎年	
2	滋賀県農業・水産業基本計画	令和3年10月	
3	高島地域普及指導基本計画	毎年	
4			
<p>具体的連携内容</p> <p>本計画の実施にあたっては上記に掲げた計画・プランとの整合性を図るとともに、本計画の内容を毎年作成する高島市水田収益力強化ビジョンに反映させることとする。</p> <p>高島市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン: 麦・大豆の作付拡大および団地化の推進を支援 高島地域普及指導基本計画: 麦類の生産拡大を普及課題として位置づけ、収量向上および生産面積拡大を支援</p>			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆生産性向上事業	令和3年度補正事業 団地化の推進、先進的な営農技術の導入、生産性向上に向けた機械・施設の導入

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。